

出生前診断の最新動向と抱える問題

宗田聡 先生

(広尾レディース院長・茨城県立医療大学客員教授)

令和5年12月7日(木) 18:30~20:30

ウェブセミナー

筑波大学の学生・教職員の皆様はオンライン出席可能です

(筑波大学総合研究棟D棟1階117)

本研修会では、出生前診断の最新動向と抱える問題について話をします。近年、遺伝子解析技術の進歩はめざましく、30年前に母親の血液中に僅かながら胎児細胞が存在していることがわかってから研究が進み、約10年前にはNIPT(新型出生前検査)という胎児由来細胞の遺伝子を利用した検査も広く世界中で行われるようになり、日本も同様に一般的に行われています。しかし、採血のみで検査できる利便性は、専門でないビジネス目的と思われるようなNIPTクリニックの乱立を招き、それを問題視した日本医学会と厚労省は出生前検査認証制度を立ち上げ運用が始まったところです。また、海外では人工妊娠中絶の是非が大きな問題となるのに対して、日本では公の場できちんと議論が進まないまま実際には行われている倫理的な問題も存在しています。

今回の勉強会では、広尾レディース院長・茨城県立医療大学客員教授の宗田聡先生に「出生前診断の最新動向と抱える問題」の演題で、お話していただく予定です。ウェブセミナー受講希望の方は、12月1日(金)までに下記QRコード・URLからお申し込み下さい。

この講演会は日本プライマリ・ケア連合学会茨城県支部とアール医療専門職大学、茨城県理学療法士会の後援を受けています。この講演会に参加されますと、日本プライマリ・ケア連合学会 認定医1単位と認定薬剤師1単位が取得できます。

また、フロンティア医科学の医科学セミナーⅣ(プライマリケア)の一部となっています。

【申し込みフォーム】

<https://forms.gle/gDJammPi3db6SWSYA>

申し込みは
こちらから

